

回覧

# 地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) [isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp](mailto:isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp)

## 6年間の振り返って

### ――続・部会長、関係者の声

#### 二宮を代表する合唱団へ 音楽活動部会長 三浦 憲門



協議会に関わって5年、平成29年度に文化イベント振興部会(現在は音楽活動部会)の部会長を依頼されたのが始まりでした。手探りながら「やまゆり合唱団」を立ち上げ、平成29・30年度は「やまゆり里山音楽祭」を一色小学校体育館で、また一色のふるさとの家で地域の皆さまの協力で「邦楽とお茶のつどい」を開催できました。

その後、令和元年・2年は台風とコロナ騒ぎで音楽祭も中止の中、令和3年11月から練習開始にこぎつけ、今年2月12日にラディアン開館20周年記念事業として、県住宅供給公社共催で、初めてラディアンで開催することができました。コロナ感染が懸念されましたが、来場者約250名と盛況裡に終えることができたことは指導いただいた先生方初め多くの関係者のご協力の賜物と感謝しております。

やまゆり合唱団は団規約を取り決め、運営・財政面とも自立を目指してより充実した活動に取り組んでいきます。

やまゆり里山音楽祭も10月15日に決まり、5月から練習を開始する予定です。

新協議会が目指す新たなプラットフォームの上で、二宮町を代表できるような合唱団を目指していきますので、皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

#### 新たな人脈とアイデア 移動支援検討部会長 岸野 修



再生協議会は平成28年から6年間の活動でしたが、そのうち2年間はコロナ禍により活動自粛があったために実質は4年間ほどになってしまいました。

その中で、地域福祉部会と移動支援検討部会の2つの部会を通して、地域住民だけでなく町行政を含めた多くの関係者と討議・活動を重ねてきました。興味ある共通のテーマを多くの方と一緒に考えたり、調べたり、意見を交わしたことは得難い経験でありました。

再生協議会は、自治会や社協、ゆめクラブなどの既存の地域活動とは異なり、もう少し広い地域スパンの中で、特定の共通のテーマに関心を持つ人々が、それぞれの部会を通して自由に考えたり実践したりする組織でした。これまでの同一地区の中での限られた人間関係や、既存活動とは異なる新たな人脈、新たなアイデアを得たりすることが特に有用であったと感じています。あるテーマを深掘して、地域にどう生かすかということ互いに多くの人が考えて実行する行為は、目に見えない形かもしれませんが今後の地域力向上に確かにつながると思われます。

ただ、少し残念なのは、地域を支える新規の若手メンバーの参入が、当初期待したよりも少なかったことでしょうか。これについては永遠の課題であり、なかなか簡単ではありません。後継組織であるゲンコミに、引き続き期待したいところでもあります。

## 布石は十分打てた

古民家部会長 松本 篤子



GNP(グリーン二宮プロジェクト)を中心に、この地の生活文化を継承する古民家を守り、生かそうとする人たちが集まった部会です。立ち上げからあつという間に6年が過ぎてしまいました。返す返すも残念なのは、活動が軌道に乗りかけた時期にコロナ感染の問題が起こり、それまでの流れを発展させることができなかったことです。

発足初年度には、国の助成金を使って水道、トイレなどの大改修を行い、長期活用への基盤整備が出来たのは良かったと思います。その後、研修や講座、音楽イベント、ワークショップなどの利用が広がりを見せ、施設の管理をやりながら事業・イベントを企画する部会員にとってやりがいを感じる時期が続いていました。洋楽コンサートなど、参加者が屋外に溢れ出すこともたびたびありました。トイレの整備などによって、散策・ハイキングの中継地としての利用も高まりました。この2年は、それらがぱったりと止まったのはご承知の通りです。

ふるさとの家の管理は新年度以降、町・観光協会の下での活動に切り替わります。これを機に、協議会活動の中で蓄積してきたものを生かしながら、町外の方々への利用をもっと伸ばしたいと思っています。

## 運営の簡素化へ

散策路部会長 古矢 俊雄



後半の3年間を振り返ってみると、2020年度、2021年度はコロナ禍の影響で殆ど活動ができず残念であったが、2019年度は地域のイベントウォークを5回企画し、雨天等の中止もあり3回実施できた。毎回30人前後の参加者があり、地域の活性化に貢献できたと考えている。これも部会員をはじめ、関係各位のご協力の賜物と感謝致したい。

地域再生協議会の6年間は、公的資金を活用させて戴いていた立場から、活動面において様々な制約が感じられた。後継組織はその束縛からは逃れられるので活動はやり易くなると思われるが、成果を得るには地域の諸団体、及び住民からの支持や支援を得ることが不可欠となる。また、今後は活動を支える担い手が高齢化などにより確保が難

しくなるので、運営面を簡素化し担当者の負荷を軽減することが喫緊の課題として対応する必要がある。

## 魅力ある地域資源

友情の山部会長 岡村 昭寿



友情の山部会は再生協議会の健康優良児である。コロナ禍をものともせず6年間に亘り部会活動を継続してきたからである。もともと活動は屋外で、コロナ感染対策を行なうとなれば中止する必要もなかった面もある。

友情の山は群生しているやまゆりの一般公開を契機として、それまでの雑木林に散策路の整備、間伐、枝払い、下草刈り等を行なって、手入れされた里山へと変身させた。その後、友情の池も整備され、児童達が自然とふれあい、自然を学び、交流する情操教育の場として利用されている。

やまゆりの一般公開は町内外から多くの人々が訪れ、山野草の観賞ともども楽しまれている。

これからも地域の多くの方、一色小の先生方、PTAの方々等に支えられて、友情の山が地域の魅力ある資源として、いつまでも保全、維持管理がゆきとどいた里山でありつづけて欲しい。

## 町外へ発信、入居者増へ

仲野直哉 神奈川県住宅供給公社専務理事



再生協議会での6年間ご協力とご支援に対し、お礼を申し上げます。

弊社がこの取組みを始めるにあたって、地域創生、団地再生は、弊社だけでは当然なし得ることができず、何といたっても地域の皆様、地元行政のご協力が不可欠ですので、社内ではかなり議論しました。その後、皆様のご協力をいただきながら動き始め、コロナ禍の制約の中でもできることに取り組んできました。

事業採算ベースではまだまだ厳しい状況が続きますが、6年前に何もしなかったら、弊社の賃貸の管理戸数が減って、団地の活力も低減し、さらにまた賃貸住宅を集約せざるを得ないような負のスパイラルに陥ったことでしょう。いまでは、住宅への入居などにその成果があらわれ始め、この取組みをいろんな情報ツール等を使って全国に発信し、町外から人が集まり始めています。

これからも微力ではありますが、賃貸住宅跡地の活用策などをはじめ、引き続きお試し居住など、社会的企業としてできることを精一杯取り組んでいく所存ですので、ご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 「まちづくり」はこれから

笹 健夫 空き家対策副部長(元公社専務理事)



一色小学校区地域再生協議会は、平成28年5月に県住宅供給公社の二宮団地再編プロジェクトとともにスタートした。公社と協議会の活動が連携して地域の活性化を進めるためである。当時公社の専務理事、また現場の事業責任者としてこのプロジェクトに関わった。

公社から見ると団地再生の事業はソフトハードにまたがり、協議会は主にソフト部分のパートナーであるが、その関係は固定的ではなく発展的で

ある。例えば、協議会が取り組む空き家対策は公社住宅のみならず、地域全体を視野に入れて移住促進から循環居住を推進する発展的・総合的な事業となっている。それだけに息の長い事業であり、相互に課題を解決しながら今後も地道に連携していく必要がある。

スタートから6年経過した中で移住者も増え、若い人たちのコミュニティもできるなど一定の成果を上げてきたが、まちづくりについてはまだ端緒についたばかりと言えよう。幸い協議会は「元気なコミュニティ協議会」に発展的に改組され、協議会の活動を引き継ぐとともに、自立化の道を進むことになった。略称「ゲンコミ」に期待したいのは、個々の活動の継続もさることながらこの地域のまちづくりのビジョンを描き共有していくことである。それが息の長い活動の原動力になるのではないだろうか。

## いよいよ自主自立へ

志賀 道郎 二宮町政策部長



協議会活動に参画されてきた一色小学区の皆様、本当にご苦労様でした。

私はH27年度の二宮町の総合戦略立案の時から、町にとって初めてのこのプロジェクトに関わってきました。この6年間、様々なテーマに取り組み、地域の皆様の知恵とパワーで乗り越えてきました。ただ、それらのことが、町内に十分に知られ、理解されていない面があるのは残念なことです。これまでの活動記録をしっかりと残し、関係者が見られるようにして欲しいと思います。

組織の解散に際し、これまでの事業継承や後継組織についての議論がありました。大きなテーマにしている生涯学習活動などでは、この地域を起点に大きく広げて欲しいと期待しています。

新組織では自主自立の活動へと移行します。これまで培った人と人とのつながりを生かし、よりたくさんの方々が参加するよう盛り上げていただきたいと思います。

## 地区を越えた繋がりにこそ

小島 孝紀 二宮町政策部地域政策課長



私が協議会と関わったのは、産業振興課のときに散策路部会の道標について、生涯学習課の時に地域交流部会のこうりゅう塾「もっと知ろう一色・二宮」への学芸員への講師依頼、ラディアン内への講座案内ちらしの掲示依頼でした。

地域に住まわれている方のため、地域の活性化のために熱心に取り組まれる姿に感銘を受け、さらに学芸員の活動の場を広げていただきました。その後、2年前の令和2年度に地域政策課へ異動となりましたが、その4月7日に「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が発出され、さまざまな事業を見送りながらの活動となりました。

協議会の活動実績としては、他の学校に先駆けて一色小学校がコミュニティ・スクールとなったほか、地域包括ケアシステムの第二層の協議体である一色小学校区福祉協議会の設立が一例としてあげられますが、一色地区、緑が丘地区、百合が丘1・2・3地区の計5地区における、地区を越えた人と人との繋がりは、活動を通じた財産であると思っています。

今後のさらなる活動の発展を祈念するとともに、当課としましても必要な支援をさせていただきますので、引き続きよろしくご協力をお願いします。